

冬の川辺で

冬晴れ 川のそば
差し掛かる橋の上
指で切り取った
雪景色の中で

岸辺の白さに色をなくして
黒い流れに光が映る

何もかも捨てて
気軽になるはずが
虚しさ広がってきて
寂しさつのるだけ

こちらをみて一羽だけ
佇むのはなんの鳥かな
そんなこと思っても
仕方ないと言われてる気がする

遠くの流れが少し霞んでる
わずかな気嵐 残るところを

マスクを外して見つめたそのとき
痛いほどの冷たさ喉を突き抜ける

強いと言われながら
つらぬいてゆくはずが
ただ一人置いてきぼりに
されたように感じるだけ

風をみて一本足で
佇むのはなんの鳥かな
そんなこと考えるより
今を生きろと言われてる気がする